



子どもの6分の1 6人に1人が貧困状態に陥っているといわれる現在の日本。この連載では、その6分の1の子どもたちの現状と、この地域で「子ども貧困」の解決に取り組む団体の活動をご紹介します。

「子ども食堂」は「子どもの居場所づくり」——『わいわい子ども食堂』 杉崎 伊津子——

子どもの6人に1人が相対的貧困にあるという発表がされてから、もうずいぶん経ちます。学校の門前で一年間、毎月「子ども食堂」の宣伝チラシを配付してきましたが、貧困かどうかなどは判別できません。子どもたちは無邪気に「子ども食堂のチラシだ!」「僕、行ったことある!」などと、賑やかに受け取ってくれます。

私たちは、北区の3団体(北医療生活協同組合・名北福祉会・名古屋北法律事務所友の会ハウネット)が協働して、2015年の11月から月1回・第1水曜日の夜を定例に『わいわい子ども食堂』を開設しています。

子ども食堂を開設することになったのは、名古屋市が始めた生活困窮者学習支援事業を北医療生活協同組合が受託し、そこで出会った子どもたちの言葉がきっかけです。「夏休みになると、給食がなくて痩せる子がいる」という中学生の言葉、学習支援で休憩時間におにぎりを作って食べますが、残ると「お

父さんに持って帰る」と言う子もいます。子ども食堂への誘いのため、学習支援の子どもたちに声をかけると、「そこって、おかわりできるの?」と聞きました。おかわりを遠慮するという気持ちがせつなく思えました。「いっぱいおかわりしていいよ」と伝えました。

この頃はまだ、東京・大阪に「子ども食堂」があるという情報しかありませんでした。東京で先駆的に子ども食堂を実施している「あさやけ子ども食堂」を知り、見学に行って、こういう場所が必要だと確信しました。単発的な取り組みではなく、定期的な実施し、だれでも来られる気軽な場所をつくり、「子ども一人でも入れる食堂」というキャッチフレーズで開始しました。

一年以上が過ぎ、いろいろな子どもが来るようになってきました。もちろん貧困家庭かどうかは全く不明です。子どもたちにとって居心地のいい場所にするにはあまり突っ込んだ話をせずに、子どもたちがふっと語ることに注意しています。

貧困とは経済的な貧困だけではなく「育ちや心の貧困化」もあります。シングル家庭の親のストレスを受ける子ども、長時間労働の影響で子どもだけで夕食をすます姉妹たち。外国籍の親の子どもも少なからず来ます。子どもの貧困問題は、子ども自身には責任がないということを私たちがしっかり受け止めなければいけません。この国の社会保障制度などの不備が一番の問題です。

また、子ども食堂は教育の場ではないので、あるがままの子どもを受け入れ、そしてどの子も差別なく入れる、敷居が低い場所でなければなりません。貧困対策という言葉も避けてほしいと思っています。子どもたちにとってこの場所が、信頼できる大人たちとつながる場所であつたらいいと思っています。幸い、『わいわい子ども食堂』には近辺から、ちょっと遠い地域から、学生・青年・おじさんやおばさんなどたくさんの応援が来てくださっています。ハンドベル・めずらしい鼻笛の演奏や合唱団の方の出前など、うれしい飛

び入りもありました。

開始からの1年を平均すると、子どもは毎回35人程度の参加になります。ボランティアは15人ほど。それ以外にたくさんのお見学やメディアの取材を受け、いつも満員です。

ここでは、小学生の親は送迎というパターンが定着しつつあり、小さい子どもは親子連れの参加です。この食堂が、親にとって信頼できる場所になったということだと思っています。忙しい親がたまには子どもから離れて自分の時間を作る一助になれば、それもよしと思っています。

私たちは、早いうちに子どもの無料化と月2回への拡大を実現したいと考えています。それには安定的な資金が欠かせません。さらに、調理してくれる方、子どもの見守りボランティアをもっと増やしていかなければと思っています。

子ども食堂は全国的に大きな広がりです。開設は場所さえあれば容易にできますが、持続させるための努力がなにより大切です。子どもたちが楽しみにしているので、決して大人の都合で休んだり、やめたりしない覚悟が必要かと思っています。持続のためにはスーパーマン的な一人ではなく、いろいろな人とのつながり、主体的な参加者を育てていくことも大切だと思います。

『わいわい子ども食堂』ではボランティア登録制などはありません。その日に来た人で準備をします。好きな時間に来て、自分の都合で早く帰ってもなにも問題はありません。

参加してくる子どもも自由で、ボランティアも自由という方式で今まではうまく回ってきました。今後、拡大していくためには、なんといっても一緒に動いてくださる人の確保が欠かせません。ボランティア活動が、単に人に奉仕するためだけでなく『自分自身の喜びと成長』になるように学習の場も作る必要があります。何よりも子ども食堂への参加が楽し



食事の始まり

いと思えるように、いっその努力をしなければと思っています。

子ども食堂に対しては、行政や自治体も関心を持っています。名古屋市も開設費用の助成などを予算化するそうです。しかし、学校ではどのように受け止められているのか、さっぱりわかりません。参加している子どもたちの中で気になる子がいても、学校との連携はどうしたらいいのかと思います。費用の助成制度のみでなく、周知や連携に対しても行政・自治体だからできる応援をしてほしいと思っています。

子ども食堂はまったく新しい形態の取り組みです。だからその定義はありません。自由で、多様で、地域住民からの自主的な取り組みであるのが特徴です。せめて小学校区で1ヵ所はほしい「子どもの居場所」です。ぜひ、調理や子ども相手のお手伝いに来てください。野菜などのカンパも歓迎しています。

INFORMATION

わいわい子ども食堂
名古屋市北区上飯田北町1-20
北医療生協すまいるハートビル2階
TEL:052-914-4554

わいわい子ども食堂 Facebook で 検索

開設日:毎月第1水曜日 17:00~19:00
当日の準備は15時から行います。お手伝いの方はエプロン・三角布をご持参ください。



食事の前は、工作やゲームなどをして過ごします